

**「即時型食物アレルギーによる健康被害の全国実態調査」の概要  
(平成23年度・24年度 消費者庁調査)**

## 調査方法

- 過去の調査(平成13-14年度調査、平成16-17年度調査、平成19-20年度調査)の協力医師、調査対象、調査方法全てを踏襲し、継続性を重視
- 協力医師はアレルギーを専門とする医師（日本アレルギー学会指導医及び専門医、日本小児アレルギー学会会員）の中で調査の主旨に賛同をえられた者(1,079名)
- 調査対象は“何らかの食物を摂取後60分以内に症状が出現し、かつ医療機関を受診したもの”とし、調査項目も従来の全国調査の基本的な項目\*や様式を変えていない。
  - \*名前、性別、年齢、原因抗原の摂取食物種(自由記載)、原因抗原、臨床症状(皮膚、呼吸器、粘膜、消化器、全身から選択方式と自由記載方式の併用)、転帰、初発/誤食
- 今回の調査より新たに1) 治療項目(アドレナリンの投与の有無)と、2) 初発/誤食に関して誤食が“加工食品に含まれるアレルギー表示”の表示のミスか否かも追加調査。
- 調査は平成23年1月から3ヶ月毎に1年間に渡って葉書郵送法で実施(アレルギー専門医1,079名)  
なお、食物負荷試験や経口免疫療法により誘発された症状は調査の対象としていない。

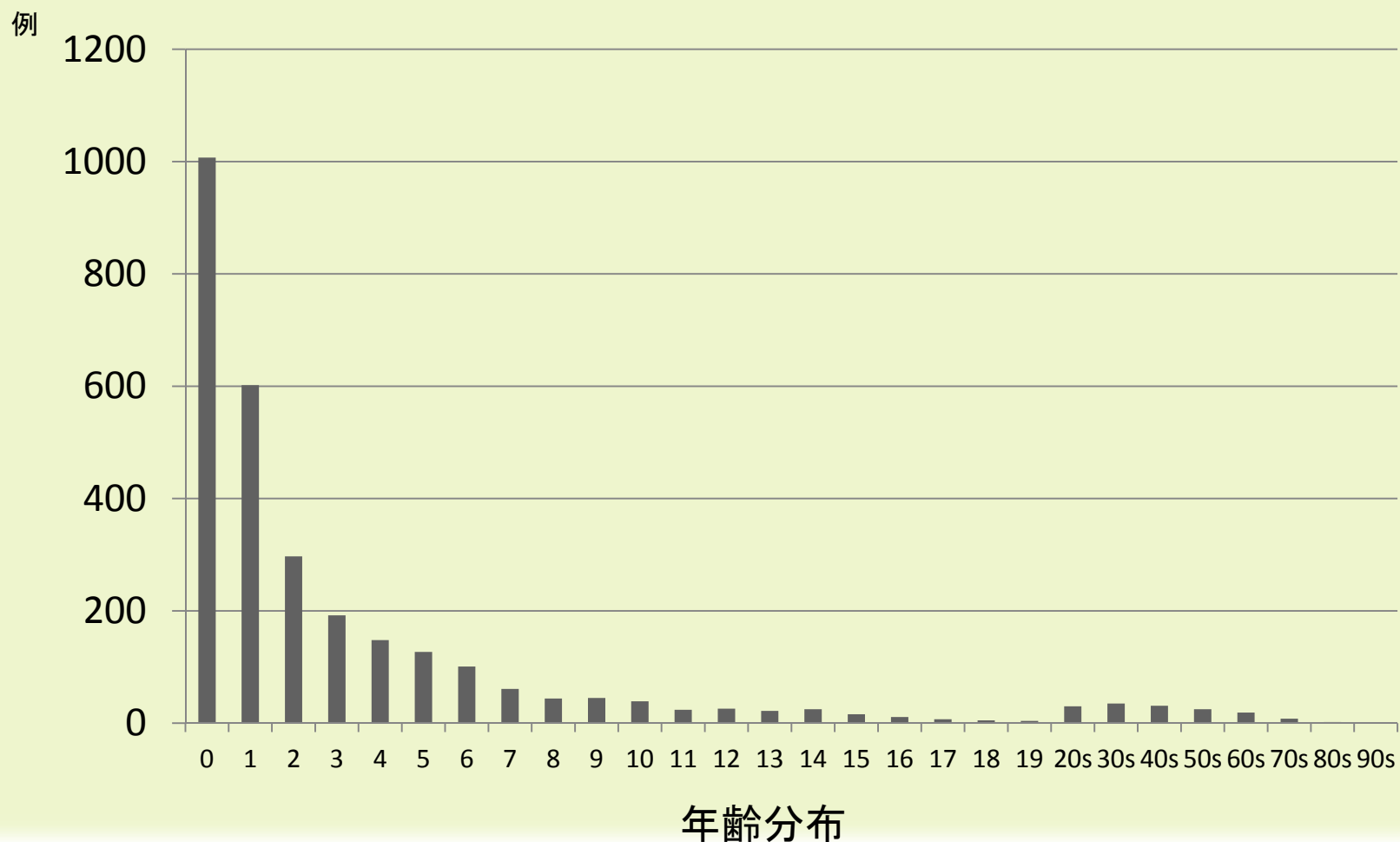
## 調査対象

第1回(H23.01-03月)681例	} 合計2,954例
第2回(H23.04-06月)898例	
第3回(H23.07-09月)859例	
第4回(H23.10-12月)516例	

※なお、分析対象は年齢、性別、原因となるアレルギー抗原が特定されているものを抽出

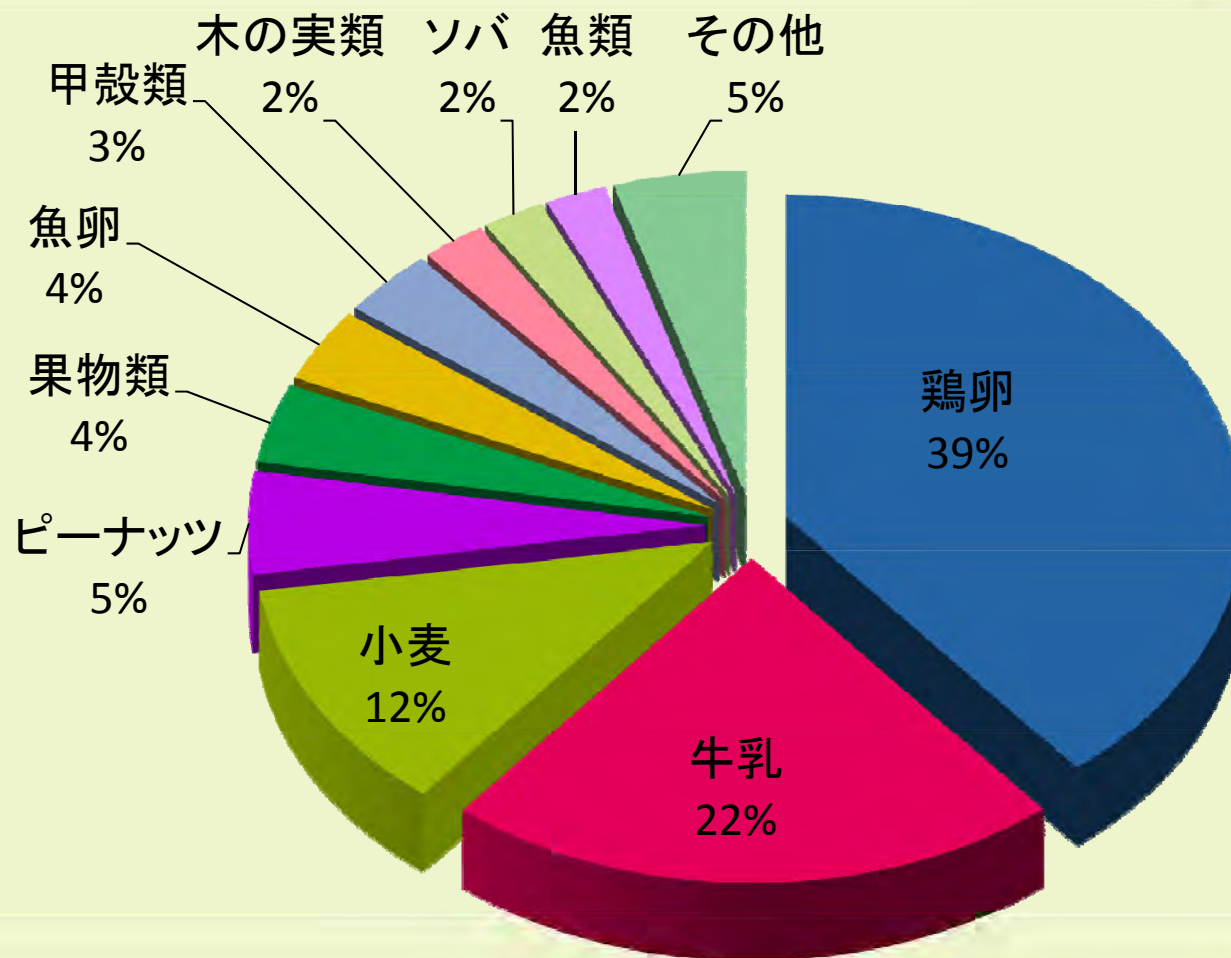
## 年齢分布

0歳が1,009例(34.2%)で最も多く、以降加齢に伴い漸減した。1歳が600例(20.3%)、2歳が297例(10.1%)で、2歳以下で64.6%、5歳以下で80.3%、10歳以下で90.1%を占めた。なお、18歳以上は160名(5.4%)を占めた。全体の男女比は男1.4:女1(1,724/1,230)であった。



## 原因食物

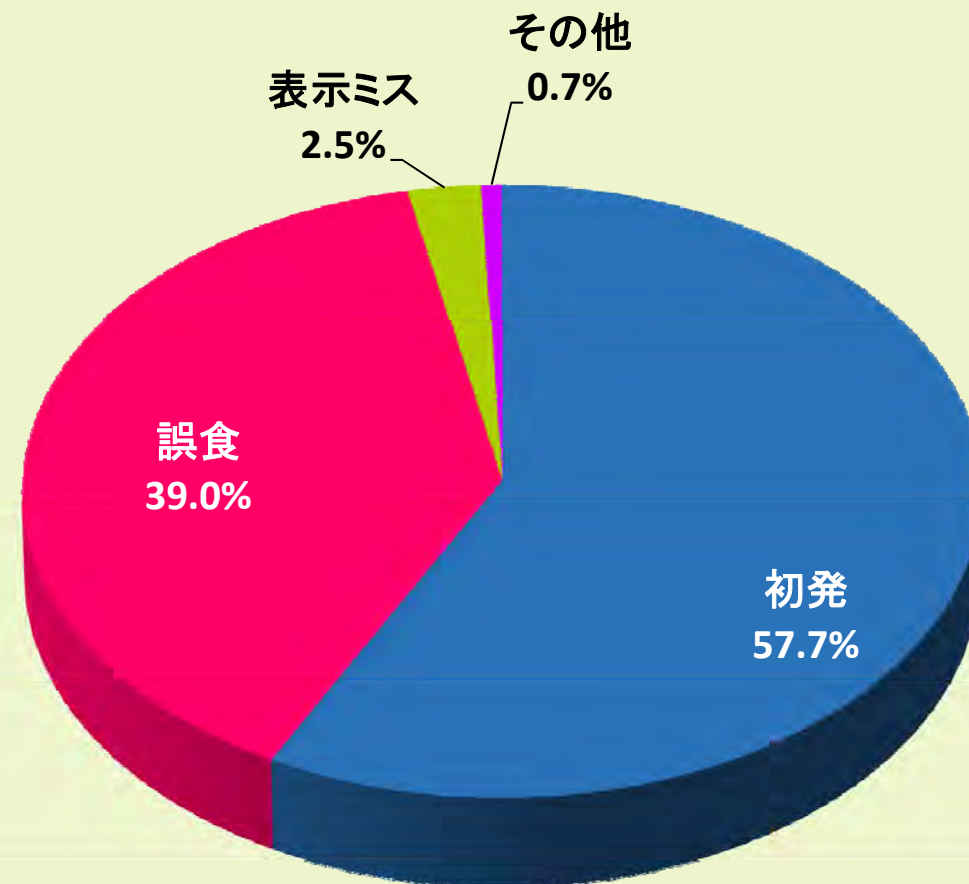
鶏卵1,153名(39.0%)、乳製品645名(21.8%)、小麦347例(11.7%)が多く、以下ピーナッツ、果物、魚卵、甲殻類、木の実類、ソバ、魚類が上位10傑であった。上位3抗原で全体の72.5%、5抗原(+ピーナッツ、果物)で81.6%、上位10抗原で95.3%を占めた。



原因食物の割合

## 発症 要因

発症要因として、初発が1,705例(57.7%)、誤食が1,153例(39.0%)、表示ミスが75例(2.5%)、その他が21例(0.7%)であった。



初発／誤食／表示ミスの割合

## 初発

初発の原因食物を抽出すると、0歳群の初発率が87.6%と最も高い。その後急激に低下し、誤食による発症が中心となる。

原因食物は、0歳群において3大原因食物が圧倒的に多いが、それ以降は各年齢群の特徴が現れる。1歳群では2位に魚卵、2,3歳群では1位に魚卵、3位にピーナッツ、4-6歳群では1位に果物類、3位にピーナッツ、7-18歳群では1位に甲殻類、2位に果物類、19歳以上の群では1位に小麦、2位に魚類、3位に甲殻類となる。

	0歳 (884例)	1歳 (317例)	2,3歳 (172例)	4-6歳 (109例)	7-18歳 (117例)	≥19歳 (106例)
1	鶏卵 57.6%	鶏卵 39.1%	魚卵 20.3%	果物類 16.5%	甲殻類 16.2%	小麦 38.6%
2	牛乳 24.3%	魚卵 12.9%	鶏卵 13.4%	鶏卵 15.6%	果物類 12.0%	魚類 12.3%
3	小麦 12.7%	牛乳 10.1%	ピーナッツ 11.0%	ピーナッツ 11.0%	鶏卵 10.3%	甲殻類 11.3%

年齢別初発事例のアレルギー抗原

誤食、  
表示  
ミス

1,153例(39.0%)が誤食例であり、75例(全体の2.5%)が表示ミスによるものであった。特定原材料の表示ミスは70例であった。表示ミスは乳が29名で最も多く、以下小麦18例、鶏卵17例であった。

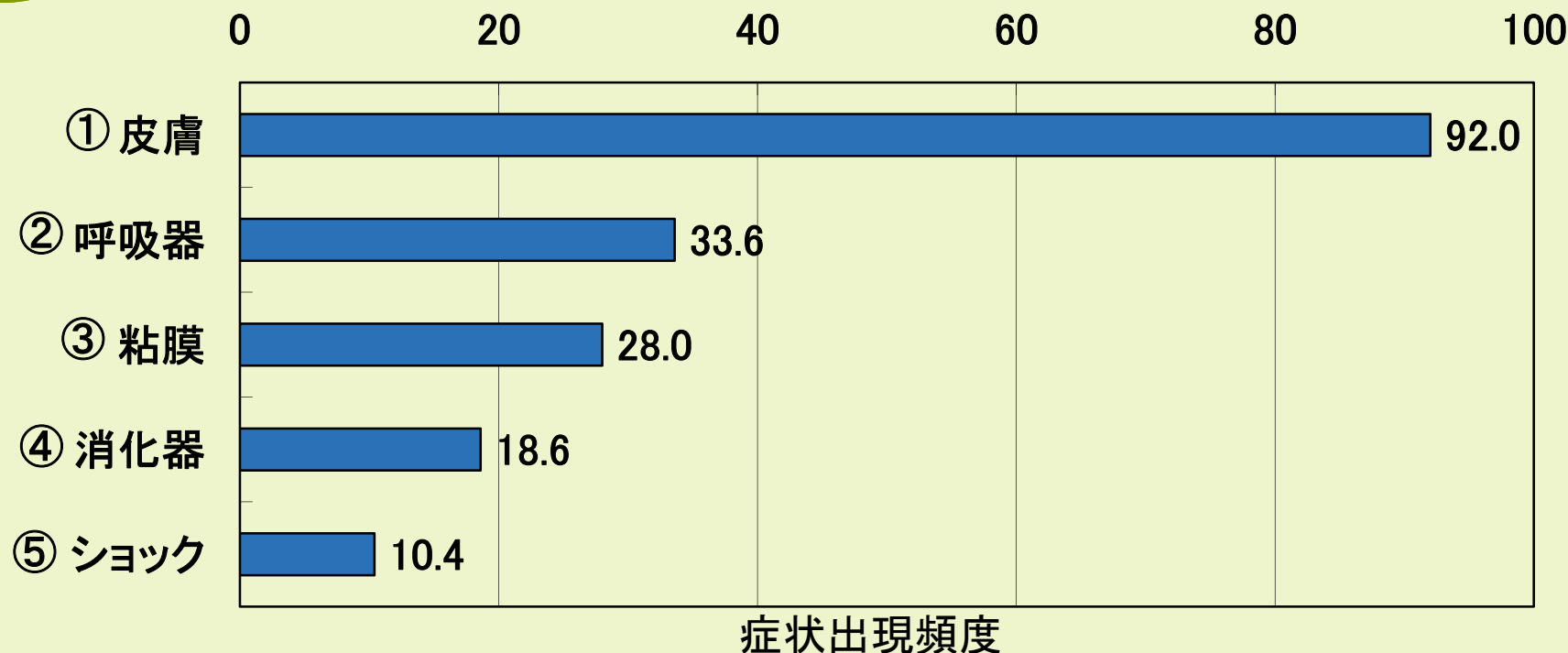
誤食の原因食物を年齢群ごとに抽出すると、6歳までは上位3抗原で全体に占める割合が80%を大きく超える。またその原因食物も特定原材料で全てカバーする。7-17歳群の誤食率は62.5%と最も高く、特に注意を要する年齢群といえる。上位抗原は鶏卵、ピーナツ、牛乳、甲殻類が上位である。

	0歳 (119例)	1歳 (280例)	2,3歳 (311例)	4-6歳 (265例)	7-18歳 (200例)	≥19歳 (53例)
1	鶏卵 49.6%	鶏卵 48.6%	鶏卵 37.0%	鶏卵 40.0%	鶏卵 19.5%	小麦 35.8%
2	牛乳 32.8%	牛乳 34.3%	牛乳 36.3%	牛乳 30.6%	牛乳 17.5%	鶏卵 22.6%
3	小麦 16.8%	小麦 11.4%	小麦 14.1%	ピーナツ 11.7%	ピーナツ 16.5%	ソバ 9.4%

年齢別誤食事例のアレルギー抗原

**出現  
症状**

皮膚症状が92.0%で最も多く、以下呼吸器33.6%、粘膜28.0%、消化器18.6%、ショック10.4%(307例)であった。



**主な症状**

- ①皮膚:かゆみ、じんましん など
- ②呼吸器:くしゃみ、喘鳴、呼吸困難 など
- ③粘膜:唇や瞼の腫れ、喉のかゆみ など
- ④消化器:腹痛、下痢、嘔吐 など
- ⑤ショック:頻脈、虚脱状態(ぐったり)、意識障害、血圧低下  
(「食物アレルギーの診療の手引き2008」を参照)